

## 第3回 高知港海岸景観・利便性等検討会

アンケート調査結果を踏まえた  
景観・利便性等の方向性について

---

平成29年12月14日  
高知県土木部港湾・海岸課  
国土交通省四国地方整備局

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 防災面 アンケート調査結果を踏まえた方向性について

### 3-1.【防災面】の方向性について

#### 実態・特性

- 近隣住民を中心に頻度の高い利用者がいる一方で、高知市内をはじめとした**広域からの利用者(年に数回以下)**もあり、現地に慣れていない利用者も多数みられる。
- 現地では、周辺の津波避難ビルや避難経路の**避難情報が不足**している。

#### ニーズ

- 人の命や財産を守るための**防潮堤整備やその早期完成**が望まれている。  
(景観・利用面に比べて大きい)
- 近隣住民以外の頻度の低い利用者にとっては、津波避難ビルや避難経路が**十分に認知されていない**。
- 避難の障害として、**公園の出入口が少ないこと**や逃げる**方角が分かりにくいこと**などが指摘されており、避難誘導の標識等の防災情報が望まれている。

#### 防災面の方向性

#### ねばり強い防潮堤の早期完成に向けた整備と避難への対応

- 30年以内の発生確率が70%程度(30年確率71%※)と予想される南海トラフ地震の対応が必要。
- 発生頻度の高い津波(=I1津波)に対しては、人命及び財産を守るための防災を目標とし、最大クラスの津波(=I2津波)に対しては、減災を目的とした抵抗力のある粘り強い防潮堤の早期完成に向けた整備が必要。
- 減災の観点から、不特定多数、地域に精通していない利用者も安全かつ短時間で避難できるための、避難経路の確保や誘導方策の検討が必要。

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 景観面

## アンケート調査結果を踏まえた方向性について

### 3-2.【景観面】の方向性について

#### 実態・特性

- 日常的な利用としても、海を眺めたり、海や松林を感じながら散歩をするような利用が多い。  
⇒遊歩道の上部からは、海と松林の両方が眺められ、連続した視点場となっている。
- キャンプやバーベキューでの利用は、既存の海岸保全施設の直背後にまで及んでいる。  
⇒浜辺に近く、護岸によって適度な囲われ感があり日除けにもなっている。

#### ニーズ

- 優れた景観として、松林や砂浜、遊歩道の評価が高い。千松公園と海水浴場は地域に欠かせない景観資源となっている
- 防潮堤が整備されれば安全になるが、海への眺めの確保や、圧迫感を懸念する意見は、海岸利用者・近隣住民・高知市民ともに多い。

#### 景観面の方向性

#### 自然景観と防潮堤との調和、多様な利用者と防潮堤の親和性

- 景観を特徴づけている、松林と砂浜の自然景観を可能な限り保全して、防潮堤と自然景観の融和を図ることが必要。
- 海岸保全施設に近い位置での散歩やキャンプ等の利用者に配慮して、防潮堤の嵩上げに伴う圧迫感の軽減を図ることが必要。

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 利用面 アンケート調査結果を踏まえた方向性について

### 3-3. 【利用面】の方向性について

#### 実態・特性

##### 特徴的な利用形態

- ・ 遊歩道の線的な利用: 散歩や海を眺める(近隣住民)
- ・ 海岸保全施設を跨ぐ砂浜と松林の行き来:  
(海岸利用者: キャンプやバーベキューと海水浴がセット)  
⇒特に駐車場がある南側に集中。北側は千松公園の敷地が狭く、利用者も少ない。

#### ニーズ

- ・ 防潮堤が整備されれば安全になるが、松林と砂浜が自由に(楽に)行き来できることや遊歩道を歩くことを大切にしたいと感じている人が多い。
- ・ 防潮堤天端や前面を利用した散策と眺めを大切にしたいと感じる人が多い。

#### 利用面の方向性 海浜と松林の相互アクセスの確保、新たな利用等を喚起する防潮堤整備の工夫

- ・ 本公園の利用の特徴である、海浜と松林の相互アクセスを確保することが必要。
- ・ 防潮堤整備によって、公園の機能向上や利用促進にもつなげていく視点が大切。
  - ⇒防潮堤が整備されても、堤防天端や堤防前面を利用した眺めや散策機能の確保
  - ⇒防潮堤整備によって、新しい利用や景観体験を喚起する工夫

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 防災面

### 海岸保全施設の整備において配慮すべき事項と対応方針について

#### 防災面の方向性

#### ねばり強い防潮堤の早期完成に向けた整備と避難への対応

- 30年以内の発生確率が70%程度(30年確率71%)と予想される南海トラフ地震の対応が必要。
- 発生頻度の高い津波(=L1津波)に対しては、人命及び財産を守るための防災を目標とし、最大クラスの津波(=L2津波)に対しては、減災を目的とした抵抗力のある粘り強い防潮堤の早期完成に向けた整備が必要。
- 減災の観点から、不特定多数、地域に精通していない利用者也安全かつ短時間で避難できるための、避難経路の確保や誘導方策の検討が必要。

#### ●粘り強い防潮堤の検討について

『港湾における防潮堤(胸壁)の耐津波設計ガイドライン(国土交通省港湾局 平成25年11月)』では、東北地方太平洋沖地震における被災経験を踏まえて、津波に対する粘り強い防潮堤(胸壁)を設計するための基本的考え方をとりまとめている。しかし、「地震動の防潮堤等への影響は、構造形式によって異なる可能性がある」ことを示していることから、技術的な観点からの粘り強い防潮堤の検討に配慮が必要。

➡『高知港海岸地震津波対策技術検討会』において、景観・利便性等にかかる条件に配慮しつつ、新技術の適用性やコスト縮減・対策方法の妥当性等について専門家の助言等を頂き、要求性能の確実な確保について検討することで対応する。

#### ●避難経路や誘導方策の検討について

➡構造形式及び平面配置が定まり、動線機能(階段・スロープ)・休息機能(日陰・ベンチ・トイレ)・眺望機能における詳細検討を実施する際に、安全性や短時間での移動等を考慮しながら、施設管理者等と協議・調整することで対応する。

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 景観面

### 海岸保全施設の整備において配慮すべき事項と対応方針について

#### 景観面の方向性 自然景観と防潮堤との調和、多様な利用者と防潮堤の親和性

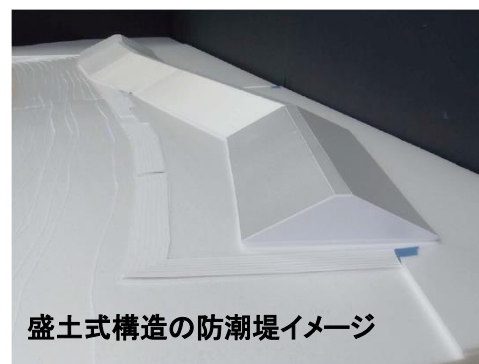
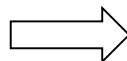
- ・ 景観を特徴づけている、松林と砂浜の自然景観を可能な限り保全して、防潮堤と自然景観の融和を図ることが必要。
- ・ 海岸保全施設に近い位置での散歩やキャンプ等の利用者に配慮して、防潮堤の嵩上げに伴う圧迫感の軽減を図ることが必要。

#### ●防潮堤の嵩上げの検討について

既設の防潮堤の上に、盛土式の構造タイプを想定した場合の嵩上げのイメージを下図に示す。整備にあたっては、高さに加えて堤体幅の確保が必要になることが想定され、圧迫感等の緩和に配慮が必要。



例えば、  
盛土式の構造タイプで嵩上げ  
した場合のイメージ



➡ 構造形式(素案)の提案の中で、盛土式の構造タイプに加えて、壁式の構造タイプを抽出し、『高知港海岸地震津波対策技術検討会』において、技術的観点から助言を頂く。その後、盛土式と壁式構造断面を法線方向に組み合わせ、防潮堤の圧迫感等の緩和について検討することで対応する。



# 3 景観・利便性等の方向性について

## 景観面

### 海岸保全施設の整備において配慮すべき事項と対応方針について

#### ●防潮堤のコンクリート表面の検討について

コンクリート表面は、無味乾燥な印象や圧迫感を与え、松林と砂浜の自然景観との調和を図ることが困難となる場合が想定されることから、自然景観及び利用面に配慮が必要。

コンクリートによる盛土式構造のイメージ



長大なコンクリート表面の壁式構造のイメージ



➡ 構造形式及び平面配置が定まり、詳細検討を実施する際に、表面の緑化（例えば、植栽）やコンクリート表面に変化を持たせる工夫を施すことで対応する。ただし、化粧型枠を使用することが必ずしも景観面の配慮にはならないこともあるため、松林と砂浜の自然景観及び利用面を考慮して検討することで対応する。

盛土式構造+植栽



コンクリート面の無機質な印象に変化を持たせるイメージ



化粧型枠を使用することが必ずしも  
景観配慮にはならない可能性に注意する

# 3 景観・利便性等の方向性について

## 利用面

## 海岸保全施設の整備において配慮すべき事項と対応方針について

### 利用面の方向性 海浜と松林の相互アクセスの確保、新たな利用等を喚起する防潮堤整備の工夫

- ・ 本公園の利用の特徴である、海浜と松林の相互アクセスを確保することが必要。
- ・ 防潮堤整備によって、公園の機能向上や利用促進にもつなげていく視点が大切。
  - ⇒防潮堤が整備されても、堤防天端や堤防前面を利用した眺めや散策機能の確保
  - ⇒防潮堤整備によって、新しい利用や景観体験を喚起する工夫

### ●眺望や散策機能の確保の検討について

嵩上げされる防潮堤によって、動線機能(階段・スロープ)・眺望機能の確保が困難となる場合が想定されることから、動線機能・眺望機能の確保に配慮が必要。

➡ 構造形式及び平面配置が定まり、動線機能(階段・スロープ)・眺望機能における詳細検討を実施する際に、施設管理者等と協議・調整することで対応する。

